

令和 7 年度岡山市歯と口腔の健康づくり推進協議会 議事録

令和 8 年 3 月 26 日(木)10:00~11:30

場所:ほっとプラザ大供 5 階軽スポーツ室

1 開会

○高木健康衛生担当局長

平素より、岡山市の保健福祉行政の推進にご理解とご協力を賜り、この場をお借りして感謝申し上げます。

現在、令和 6 年度に策定した岡山市歯科保健基本計画(第 2 次)に基づき、様々な施策を展開しているところ。今年度は、国において、生涯にわたる切れ目のない歯科健診の実現に向け、歯周病検診の対象者を拡大したことに伴い、当市においても、20 歳の者に対して歯科健診・クリーニング事業を開始した。詳細については、後ほど担当者からご説明するが、その結果を見て、若い世代からの歯周病予防が必要だと改めて感じている。本日は、若い世代からの歯周病予防について、忌憚のないご意見をお願い申し上げます。

2 自己紹介

今年度の委員改選により、岡山市おやこクラブネットワークの山崎委員、岡山県通所介護事業所協議会の小馬委員、岡山大学学術研究院医歯薬学域の江國委員が、新たに委員に就任。山崎委員、小馬委員、江國委員から自己紹介。

3 会長及び副会長の互選

会長は江國委員に、副会長は全任期に引き続き横山委員に決定。

4 報告

岡山市の歯科保健の現状と岡山市歯科保健基本計画(第 2 次)策定以降の取組【資料 1】

○事務局

【岡山市の主な歯科保健関連事業(令和 7 年度)】スライド 2

岡山市が行っている妊娠期から成人期、高齢期に至るまでの事業を体系図で示している。各事業の取組について、岡山市歯科保健基本計画(第 2 次)の16ページから31ページに沿って説明。

【むし歯(未処置・治療済み・抜歯の合計)のない幼児の割合の推移】スライド 3

3 歳児の健康診査の状況を示すもの。むし歯のない幼児の割合は順調に増加している。

【定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の推移】スライド 4

表中に示している緑色の折れ線グラフが 3 歳児、青色の点線が 1 歳 6 か月の時点でフッ素塗

布を受けている幼児の割合であり、順調に増加している。

【永久歯の一人平均むし歯数(未処置・治療済み・抜歯の合計)の推移】スライド 5

中学校1年生の1人平均のむし歯数を示すもの。増減を繰り返しているが、近年は横ばいのような状況。

【中学生における歯ぐきに炎症所見を有する割合の推移】スライド 6

20%前後で推移をしており、減少していない。

【岡山市 妊婦・パートナー歯科健康診査 受診者数の推移】スライド 7

妊婦は約30%、パートナーは約15%前後の受診率で推移している。

【岡山市 妊婦・パートナー歯科健康診査の結果①】スライド 8

令和6年度の結果を示すもの。異常なしの割合は妊婦の方が高い。妊婦及びパートナーのどちらも、要指導または要精密検査の割合が半数を超えている。

【岡山市 妊婦・パートナー歯科健康診査の結果②】スライド 9

妊婦とパートナーがともに健診を受けた場合の結果を示すもの。妊婦で異常なしの場合、パートナーも異常なしの方が多く、相関している。

【成人を対象とした歯科検(健)診の受診者数】スライド 10

令和7年度は、20歳を対象とした歯科健診を開始。30歳、40歳、50歳は歯周病検診、60歳、70歳、76歳、80歳は口腔機能健診を実施しているが、なかなか受診者が伸びていないのが課題。

【歯周病検診・口腔機能健診の結果】スライド 11

受診者344名のうち、約80%は何らかの原因で要精密検査という結果であった。

【入所介護施設等への歯科保健推進事業】スライド 12

施設利用者の口腔内の状態を、協力歯科医師に診ていただき、施設職員へ口腔ケアのアドバイスをしていただくという事業。今年度は8施設394人が利用。

【あつ晴れ!もも太郎体操 活動支援事業、フレイル対策事業】スライド 13

岡山市ふれあい介護予防センターで行っている、令和6年度の当該事業の活動団体数を示すもので、順調に増加しているところ。

また、フレイル対策事業として、おおむね65歳以上の方を対象にフレイル健康チェックを行い、

その後、必要な指導を行っている。約半数は健康という結果であったが、全 25 項目のうち、4 項目以上該当するプレフレイル状態の方が30%程度、8 項目以上該当するフレイル状態の方が 20%弱であった。

【小学校 1 年生向け 永久歯むし歯予防リーフレット】スライド 15

フッ素の利用について分かりやすく紹介するリーフレットを歯科医師会にご協力いただき作成している。養護教諭や学校歯科医の先生が実際に説明しながら配布する等、ご活用いただいている。

【中学校 2 年生向け 歯周病予防パンフレット】スライド 16

先ほどと同様に、歯科医師会にご協力いただき、作成した。学校歯科医が学校保健委員会で説明しながらパンフレットを配布する等、ご活用いただいている。

【歯科健康診査・クリーニング事業(歯たち(20歳)のチェック&クリーニング)の結果①】スライド 17

20 歳の者に対する歯科健康診査・クリーニング事業を今年度から開始。

昨年 5 月下旬に個別通知として受診券はがきを送付し、11 月に市内の 10 大学に周知依頼をお願いしたところ、650 人が受診。そのうち約70%は要精密検査という結果であった。受診者の約30%は、歯肉炎や歯周炎が診られ、要治療のむし歯がある方もいた。

【歯科健康診査・クリーニング事業(歯たち(20歳)のチェック&クリーニング)の結果②】スライド 18

歯科健康診査・クリーニング事業の受診者のうち、歯科医院への直近の受診状況を示したものの。約半数は 1 年以上歯科医院に行っておらず、当該事業が契機となり受診につながった者も一定程度いると考えられる。

5 議事

歯周病予防 ～若い世代からのアプローチ～【資料2】

○事務局

20歳を対象とする歯科健診の結果から、歯周病予防に対して若い世代からアプローチすることが重要と改めて認識したため、今回の議題として取り上げた。

【歯周病に関する目標項目】スライド 2

歯周病菌は思春期に唾液により感染し、炎症が歯ぐきに限定している場合は歯肉炎と呼ばれ、炎症が歯を支えている骨の方まで及ぶと歯周炎という状況になる。歯肉炎の状態であれば、適切に対処することで元の状態に戻せるので、歯周炎に進行する前段階での対策が大切。

岡山市歯科保健基本計画(第2次)で定める学齢期の目標として、歯ぐきに炎症所見を有する生徒の割合の減少等といった項目を掲げている。

【中学生における歯ぐきに炎症所見を有する割合の推移】スライド 3

中学校での健診において、歯ぐきに炎症所見を有する者の割合は、20%前後で大きく変化はない状況。

【歯磨き時に出血を認める生徒の割合(中学校1年生)】スライド 4

令和6年度に、中学校1年生を対象に実施したアンケートの結果を示したもの。歯肉炎の自覚症状として歯磨き時の出血が挙げられるが、約40%にその症状が認められている。

【歯周病予防】スライド 5

歯周病予防には、自分で行う丁寧な歯磨きというセルフケアと、歯科医院に定期的に受診するプロフェッショナルケアの両方が必要であるため、パンフレットを作成し啓発をしているところ。

【年1回以上、歯科検診を受けている人の割合(年代別)】スライド 6

令和4年度に取ったアンケートでは、年1回以上歯科検診を受けている人は、特に20歳代から40歳代の男性の割合が低い。

【歯科検(健)診の受診者数】スライド 7

今年度から20歳を対象に歯科健診を開始し、歯周病検診は引き続き30歳、40歳、50歳を対象に実施。20歳で健診を受診した方は約10%、歯周病検診の受診率は1%にも満たず、受診者が少ないという状況が課題となっている。

【歯たち(20歳)のチェック&クリーニング健診結果】スライド 8

健診の結果、要精密検査の方が約70%。歯肉炎・歯周炎の方が194人で、受診者全体の約30%を占めている。

【協議事項】スライド 9

働き盛り世代からの歯周病対策として、特に20歳代から40歳代に向けて、歯科保健に関する正しい知識の普及や、健診受診率の向上のためにどのような取組が必要か、それぞれの立場からご意見をいただきたい。

○久本委員

岡山県歯科衛生士会としては団体に向けた取組を行っているが、小学生や高齢期に向けたものを主体としている。

歯科診療所での勤務経験上、学校健診のない年代は、歯が痛い等といった症状が現れるまで受診しない者が多いように感じる。歯肉炎の状態であれば元に戻すことができると伝えてはいるが、どうしても対個人に限定されてしまう。高校卒業後の、歯科健診をなかなか受ける機会のない

世代へのアプローチの仕方は難しいと感じている。

○竹谷委員

高校までは学校健診があるが、卒業してから歯科健診を受けていない者に対して、「歯たち(20歳)のチェック&クリーニング」は受診の良いきっかけになるのではないかと思う。

今はまだ受診率が10%程度だが、今後伸びていくように、引き続き続けていくことが必要。

○小馬委員

岡山県通所介護事業所には若い世代の職員も多いが、どの程度健診を受診しているか把握はしていない。

私自身としては、5年ほど前から、歯科健診を年に3回程度受けている。歯のクリーニングをしてもらおうと非常に気持ちがよく、健康になった気持ちにもなるので、20歳の歯科健診のように若い世代が健診やクリーニングを受診する機会をつくり、その必要性や重要性を認識してもらおうことで、継続的な受診に繋がっていくのではないか。

○江国会長

この議題に関わらず、通所介護事業所での取組等、何か共有できるものがあるか。

○小馬委員

高齢者を対象とした取組としては、運動・栄養・口腔の3つが大切という認識のもと、専門職の方がスクリーニングを行い、対象の方にアプローチをかけて対応している事業所もある。

ただ、歯科衛生士といった歯科の専門職が介入している事業所は少なく、看護師等の職種の方が関わっていることが多いという印象。歯科医師や歯科衛生士による巡回診療を行う事業は、受診のきっかけを作るという観点で非常に良いことだと考える。

○水口副参事

岡山県では、事業所に設置していただいている機関紙において、従業員の健康診断に併せた歯科健診や健康相談の実施の奨励について記事を掲載し、普及啓発を行っている。

また、いい歯の日(11月8日)に合わせてポスターを作成しており、20歳代の40%に歯周病の初期症状が見られるという国のデータを示し、若い世代にも関心を持ってもらえるような工夫をしているが、なかなか難しいところ。

○根木委員

愛育委員協議会としては、フレイル対策に力を入れており、また、私の住んでいる地域が数年前にむし歯の有病率市内1位となったことで、子どものむし歯対策についても考えるようになったが、若者へのアプローチという視点が抜けていた。

地域単位でみると、若者は就職等で地元を離れることが多いため、どこかで PR をする場が必要。愛育委員という組織として、まずは声のかけやすい団体から働きかけをしていけたらと感じた。

○江国会長

愛育委員の皆さんがご家庭とか地域に対し、歯のことに関する情報やパンフレットを持って帰って配布するようなチャンスはあるか。

○根木委員

あります。

新型コロナウイルス感染症の流行時、愛育委員の活動が制限されるなか、歯周病の大変さ等について歯科医師から話を聞き、チラシを作成して全戸配布を行った。

また、紙芝居を作成し、幼稚園やこども園等で読み聞かせを実施した。保健師と一緒に考えながら、押し付けではない言葉を使用し、子どもの気持ちに寄り添った内容にしたことが評価され、その紙芝居が全国で優秀賞をいただいた。

○坂本委員

栄養委員としては、栄養教室でむし歯対策について勉強をしているが、なかなか浸透しにくい状態。栄養教室には、子どもの父母や祖父母もいらっしゃるので、まずはその保護者の方に協力してもらってはどうかと考えた。

また、健康市民おかやま 21 の取組みの中で、現在「ベジ・ファースト OKAYAMA プロジェクト」の推進に取り組んでいる。メインターゲットである働き盛り世代に啓発する機会が増えているため、若い世代に対するお口の健康についての意識向上を進めていくことも可能ではないかと思っている。歯の健康は、成人や高齢者にとって最も欠かせないもの。認識を深く持って、これからも勉強して啓発していきたい。

○山崎委員

会議に参加するにあたって、おやこクラブの保護者の意見をまとめてみた。

まず、子どもの歯科受診について、多くの家庭で 3 ヶ月に 1 回くらいのペースで定期健診を受けている。内容はフッ素塗布やクリーニング、むし歯予防が中心。最近の小児歯科はテレビやおもちゃがあったり内装が子ども向けだったり、通いやすい工夫がされている。私がお世話になっている歯科医院も、子どもが通いたくなるような環境で、非常に恵まれていると感じる。

一方で保護者自身の受診については、あまり定期的には受診していない方が多い傾向であった。理由は、時間が取れず子どもを預けるのが難しい、費用が気になるといった声があった。

また、歯科に対する意識の変化については、私たちが子どもの頃は「むし歯になってから行くもの」だったが、今は定期健診やフロス、歯間ブラシ等を取り入れて予防する仕組みに変わってきている。家庭でも仕上げ磨きや寝る前の飲食を控えるなど意識している声があった。

子どもは受診しているが保護者は少ない傾向にあるのは、やはり子どもは医療費が無料だからではないか。大人は 1 回行くとレントゲンなどで数千円かかることもあり、それで足が遠のいているのだろう。今回、この議題はすごく耳が痛いなど思いながらお話を聞いていた。

○横山副会長

昨年、政令指定都市の歯科医師会の役員会議が名古屋市で開催された際、名古屋市の方から「岡山市には歯と口腔の健康づくり条例があり、歯のことに関する協議会が行われていると聞いた。全国的にも珍しく、横浜市などの大規模な政令市にもそのような場はない。ぜひ名古屋でも条例を作ってほしいと行政に陳情するので、この会議で発言してほしい」と依頼があり、コメントしてきた。このように各所属の代表者が真剣に意見を出し合う場があることに感謝申し上げる。

あと一つ、私の身内が数週間前に腰椎圧迫骨折で動けなくなり入院した。病院の方に「お口の手入れがすごいですね」と言われた。突然の転倒などで寝たきりになった際、口腔ケアが行き届かないと誤嚥性肺炎等になり、骨折は治っても肺炎で入院が長引き医療費がたくさんかかるといった場合もある。データではわかっていたが、自分が実際に体験することで「本当にそうだな」と思った。

若年層から途切れずにケアを行っていくことは、30 年後、40 年後の健康や、将来の医療費削減に確実につながる。20 歳を対象とする歯科健診は、クリーニングがついているため本当に画期的である。簡単なポイントに絞った検査を実施し、気持ちよく帰っていただいて、必要があれば後日治療につなげる。この素晴らしい取組を継続し、より周知していくことが重要。あと、働き盛りの 30 代や 40 代も痛くなかったら歯医者に行かないと思うので、同様の「チェック＆クリーニング」をこの年代にも導入していただけたらと要望する。

○江国会長

歯科医師会としての取組や事例等、何か共有できるものがあるか。

○横山副会長

年に 1 回、市民向けの啓発イベントを行っており、特に子育て世代の方に多く来場いただいている。今年度は岡山大学にご協力いただき、口腔がん検診を無料で実施し、大変好評いただいた。市民の方にとって分かりやすかつ効果的な取組を行うよう努力している。

○江国会長

若者向けのイベントの周知方法は。

○横山副会長

岡山市立の幼稚園や小中学校、私立学校にチラシを配布していただいております。効果を得ていると考える。加えて、山陽新聞や山陽放送等にもご協力いただいております。

○久本委員

先ほど横山副会長からお話のあったイベントにおいて、岡山県歯科衛生士会の方も子ども向けにお口を使ったゲーム等を行っており、そこには保護者の方も一緒に来られている。その保護者に向けても、健診の啓発といったアプローチを考えていきたいと思った。

○江國会長

スライド7にあるように、ペアで口の健康を意識してもらうことが必要。

(これまでの委員の発言を受けて)やはり周知方法が上手にできたらよいのかなど。様々な媒体で、もっと広く有効活用できればと感じた。

また、小馬委員からも発言があったが、まず歯科医院を受診して、その気持ちよさを体験してもらうきっかけを作るということからも、今回の岡山市の新たな取組は素晴らしいと思う。

6 その他

令和8年度の事業【資料3】

○事務局

【こども・子育て施策の充実】スライド 2

平成27年度から「妊婦・パートナー歯科健康診査」を実施。令和7年度までは、パートナーは配偶者及び配偶者に準じる者に限っていたが、令和8年度からは「妊婦・子育てパートナー歯科健康診査」とし、子育て支援策として、パートナーの定義の中に妊婦の父母やきょうだい、友人など、妊婦とともに子育てをしていく人も加えることとする。

【歯科診療体制の整備・拡充】スライド 3

医療政策推進課から、来年度の新規事業について2点説明。

1 点目は、障害者の方々に対する歯科診療体制の確保事業。岡山大学病院のスペシャルニーズ歯科の体制を支援するもので、本日まで出席されている岡山県健康推進課の水口先生が中心となって進めていただいている。病院のスタッフの確保が非常に厳しくなっており、体制を維持していくためには行政の支援が必要。幼少期からの予防で重症化する者を減らしていくことが、長い目で見れば大事と考える。

2 点目は、休日の歯科診療体制の整備。現在、旧市民病院の施設で行っているものを、市医師会が新設する建物内に市が診療所を設置し、歯科医師会に運営をお願いする形で準備している。移転は来年秋頃の予定。

○坂本委員

障害者への歯科診療体制について、私の地域で、ある先生が障害者専門の歯科医院を開業して訪問看護のような形でされるそうだが、この事業との連携や関係はあるのか。

○事務局

地域の先生のところを受診できる環境が整うのは素晴らしい。ただ、障害の特性に応じた対応が可能な設備は市内でもまだ少ないと聞いている。今後、岡山県と一緒に取り組んでいけるよう、そのあたりも検討できたらと思っている。

○水口副参事

障害者の方がどこでも自分の行きやすいところに通える環境があれば良いが、現状はまだ整備が出来ていない。障害者の歯科治療は、全身麻酔や鎮静など専門的かつ特殊な環境が必要であり、今は岡山大学病院でしかそういった設備が整っていない。そのため、まずは、高度な専門知識を持つ先生方がいらっしゃる岡山大学病院と連携し、安全安心な歯科治療ができる状況を作っていく。

○横山副会長

坂本委員の地域には、すでに障害者専門で取り組まれている歯科医院の先生がいらっしゃる、今回、新たに県外から開業されるという情報がある。

先日、その地域の先生にご登壇いただき研修を行った。その先生がおっしゃるには「いわゆる一般的な歯科医院を1次医療機関、岡山大学病院を3次医療機関とすると、自分は障害者専門の1.5次医療機関である。自分にできないことは速やかに岡山大学病院へ紹介し、逆に自分じゃなくてもいいことは、ご家族にご了承いただいたうえで、一般の歯医者さんに請け負ってほしい。その仕分けをするのが自分の仕事だ」ということだった。

岡山市には現在、麻酔などの高度な管理ができる2次医療機関がないので、そこを整備していくのが私たちの役目であり、行政にお願いしたいところ。

また、妊婦健診にパートナーを含めているのは全国的にも大変少ない。さらにその位置付けを多様性の時代に合わせて変化させてくださっているのは本当に素晴らしい。休日急患についても、来年度の秋以降さらに充実して運用できるよう、皆様からも周知いただければ幸いである。

7 閉会

○渡邊部長

本日は、ご出席並びに様々なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

会議の中でご紹介した新年度の事業について、特に健康寿命については歯科保健も深く関わっており、準備を進めているところ。委員の皆様には、歯や口腔の状態が健康寿命に繋がることを十分ご理解いただいているが、一般の方に対してはまだまだ不十分なところもある。本日お集りの皆様との顔の見える関係を大切にしながら、いただいたご意見を参考に、歯科保健施策を推進して参りたい。

今後とも、皆様方のご理解、ご協力をお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。